

公表	児童発達支援事業所における自己評価総括表
----	----------------------

○事業所名	児童発達支援センターらいむの丘			
○保護者評価実施期間	令和7年 10月 14日		～	令和7年 11月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	128	(回答者数)	88
○従業者評価実施期間	令和7年 10月 1日		～	令和7年 11月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数)	21
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 16日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの様子を捉えながら、日々の関わりやあそびの提供ができている。 日頃から保護者と話さず中での悩みを聞いたり子どもの成長をともに喜ぶことができている。	子どもの気持ちに寄り添いながら、その子が分かるような声掛けや視覚支援を行っている。 園や家庭での様子を聞いたり、療育の様子を伝えたりする時間を設け、保護者と気持ちを共有する機会を作っている。	子どもや保護者の様子を職員間で共有し、支援を継続していく。
2	職員間で話し合い（打合せ、振り返り、記録など）を毎回行っている。	職員間で意識して声を掛け合い、療育に関して毎回話し合う時間を設けている。	今後も職員間の連携を図ることを強化し継続していく。
3	地域の関係機関（園・事業所など）に対して、地域支援・連携を行っている。	関係機関に専門職を派遣し、発達相談や言語相談を行っている。 園・事業所向けの研修会を開催し、各機関が繋がるような交流の場を設けている。	今後もセンターとして関係機関とより連携、外部への情報発信を強化し、地域全体の向上に努めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	対応の体制、窓口がわかりづらい。	どの職員にも相談していいという体制をとっているが、それが保護者の方の分かりにくさにつながっていると考えられる。	各職員の役割がわかるよう、相談窓口の周知方法を工夫していく。 相談内容に合わせて担当職員につなぐとともに、情報共有をしていく。
2	マニュアル（災害、安全など）の周知ができていない。	職員全体で周知徹底する機会を設けていない。	目につきやすいところにマニュアルを掲示する。 職員研修で、事故発生を想定した訓練を充実させる。 保護者にも分かりやすく周知していく。
3	人員（保育士、児童指導員）が不足している。	配置基準は満たしているが、保育士・児童指導員が不足している。	募集をかけるとともに、職員にも紹介の声掛けを行っている。